

東海道二峠六宿リレー講座

～静岡の宿場をめぐる～

徳川家康は、一六〇一年（慶長六年）に五街道整備により、五つの街道と宿を制定し、道としての東海道が誕生しました。以来四百有余年を経た現在、静岡市が有する東海道宿跡は、蒲原・由比・興津・江尻・府中・鞠子と実に六宿を数え、他に例を見ない歴史都市となっています。

本講座では、六宿周辺の生涯学習施設を舞台に、リレー形式で、東海道の成り立ちと六宿にまつわるエピソードを学びます。

参加無料

第1回 9.3[土] 13:30～15:00 蒲原生涯学習交流館
近世東海道と蒲原宿 申込8.5[金]～ ☎385-4331
 近世東海道の宿駅制度は、東国戦国大名の伝馬制度や豊臣政権下での達成を受けて、徳川家康が慶長6年（1603）正月付けで、東海道の各宿にいつせいに伝馬朱印状とその添状、および伝馬定書を下すことで始まった。しかし、その後の東海道交通の発達をみると、3代将軍家光の寛永年間の交通政策が果たした意義も大きい。それらを学んだ上で、蒲原宿の特色についてみてみることにしたい。

第2回 9.10[土] 13:30～15:00 由比生涯学習交流館
『弥次喜多』の見た由比宿と現在 申込8.12[金]～ ☎376-0511
 十返舎一九作『東海道中膝栗毛』。多くの方がご存知であろうが、読破された方はおそらく少ないのではなからうか。登場人物の「弥次」と「喜多」が繰り広げるフィクションの珍道中記であるが、当時（1800年代初め）の風俗や生活のありさま、風景を口語調の文章で描写した「史料」としても価値がある。本講座では、浮世絵のビジュアルを利用し、「弥次喜多」当時の由比宿を平成の世によみがえらせる「タイムトラベル」（時空を超えた観光）を、お話ししたい。

第3回 9.17[土] 13:30～15:00 興津生涯学習交流館
中世興津氏と興津宿 申込8.19[金]～ ☎369-1111
 興津氏が本拠を置いた興津の繁栄を中心に、この地域が陸上・水上の交通のなかでどのような役割を果たしたのかを考える。さらに、近年の景観論の成果は、中世の東海道が広く地域のなかでどのような環境に走っていたのかという問題を明らかにしつつある。『海道記』『東関紀行』など中世の紀行文には興津の景観も詳しいが、そうした情景とともに塩業や漁撈など地域に根ざした生業の像も描き出したい。

第4回 9.24[土] 13:30～15:00 江尻生涯学習交流館
江尻宿の宿付、加宿と助郷 申込8.26[金]～ ☎367-3321
 戦国時代、江尻塾は江尻城近くにおいて、今川氏輝、同義元が毎月三度市が安堵されていた。また、仲間藤次郎は清水湊に繋ぎおく新船一艘の役について訴訟をしていた。やがて、清水湊は浜清水の地に移され、江尻宿は陸上交通を担うことになった。慶弔六年（1601）正月、徳川家康は東海道の宿駅を定め、ここに近世の江尻宿が成立した。江尻宿は当初百年ほどは自力で運営されたが、天和元年（1681）には宿付六か村が定められ、正徳五年（1715）には加宿七か村が指定されて江尻宿の伝馬役を支えた。本講座では宿付、加宿を中心に、助郷を合わせて江尻宿の特徴を講義したい。

第5回 10.1[土] 13:30～15:00 葵生涯学習センター
駿府城下町と府中宿 申込9.10[土]～ ☎246-6191
 大御所となった家康が、その居城を駿府に定めたため、駿府城が大改築されるとともに、安倍川の流路も変更され、城下町の整備も行われた。城下町では街道沿いの宿駅に比べると家数・人数も多く、宿駅業務は城下町が果たすさまざまな役割の一部であった。駿府城下町は大御所家康以来の伝統もあり、とりわけ大きな城下町であったが、そのもとでの府中宿の様相をみてみることにする。

第6回 10.8[土] 13:30～15:00 長田生涯学習センター
丸子宿を旅した人々 申込9.10[土]～ ☎257-0780
 近世の東海道では、街道や宿泊施設などがよく整備されていて、参勤交代の大名を始めとする武士階級のみならず、さまざまな人々の往来が、時代が下るにつれてますます頻繁になっていった。今回は、学者・文化人の旅、外国人の旅、女性の旅という三つの観点から、それぞれその代表的な事例を取りあげ、丸子宿や宇津ノ谷峠などが、どのように描かれているのかみてみたい。